



特別
A13
4453
3



A13
4453

古今武士形像卷第三

目錄

神原家圖書記



一

編笠ハ重ク乃ハ振見

二十日

おられたる人の入子端の
中雲さられたる
一流麻髪結の

二

鬨之儀ニ付神札書

七丁目

富士ハ夏乃掛絃の
吹乃花ハ冬候の
俄出吳小打成る

三

中脇指ハハハ乃焼酎

十二丁目

此れ酒のむらり酒類の
死んで色女揃いの
古里乃難き海する

四

茶いさるぬ房枕

十四丁目

合法乃中之の
妻乃秋の園打の
十六八の花一度小女



海苔ハまて乃恒

ひ乃え午の女があらぬ男と喰うとせよ傳へしが
それハ海苔近江の國統麻乃奈とくはけ置乃
風流め縁外して此れ或い死別また海苔妻の歌
此重史の板行端と夜せおのいそは神子と夜は
年長ハ女房乃海苔那とく色西子乃何恰なる端
ひ乃とかがして是も入るる色も小いまご脇明乃
海苔と漆と眉色あけがく大端七川幸の頭飾り
く中を踏りし小波り母乃親多と掛く孫と辱く
抱く独ハと引く早子色と三人と抱く人々
美ふ也かきらぬとく二柱の陰柳の奥小皮面鏡ハ海苔
ふくは海苔乃海苔ハ又海苔乃海苔の次は海苔の

吾身を少日に花乃懸てしきひくは紙類汗と
ん初の富士といふ時花出乃大編笠と折つてまはる
山の覚めぬもくも恋乃振中堂乃何因梨の秋乃な
業丸も車ももく十中といふ人あり英形とくは
山あひと懸るるあり同一院内掛人井岡身動も
鬼法師はゆつとく立ゆり対面並とぬぞそ業丸乃
の文よ折つてに遠送た何因情乃おしげふるは
と興よありて行は跡より指とくして女乃とるは
と念者乃秋と並と後とく働つていふ業丸立と
まり家よ念友の秋ありや実も此の守おとせ人乃
口とと取一ト早業丸心もむき見は人といふ業丸
それが師坊の身ひとるも是の情乃乃とるは明

言系より通ふ人し我は独乃念者今も忘れぬ
と潤は流じのかーおられらる横もかんく
くも油坊してつれを外あるもふれあり揮の
せりく堅田丸様とくは山の曉侍若くは時
やうく内ちのゆくとさあは痛何の子細りあ
け業丸生國は知夫の小松の人長谷川集人
乃事あり男子とら十二之持く世も業丸
因指乃流り物もは押れふ至常と續く物か
り業丸秋の梢淋くは其年の暮見月と小丸
乃糖ありぬ三男全六清よ世と語り小間
俊小松と首尾然山かく同日極月廿三日乃
打くもと見おあめ愛とありぬ所執女ん

くさひ小出入息色終く七日と立ぶ所中に又秋さぬ人々
力の樂と控くち刀の敵と道んと一子全たまふ名蓮
と海一才葉丸の出家小引くとさひさぬ一人髪と影
九族老秋の飛とまぬると十二歳乃秋山小のり又白
山の藤小か入流ひくその時の山初小雲深の決小く
あふ一目とられく解けるる藤と一年も出家と解くと
十丈の雲とて情よめられく情の今有因ゆと打果か
不意の才一ふれたふの雲とつひとく人を解小結くのら
年月の通をなたとと秋の今あひくかまじし一回を
よむ世とひひくく多事とひひるもとふ小自さるるとえ
とくくさく人よれと女毎のあつくと一か小あられぬくどお
りふあひひくありあ流くと秋とと情ととひひるりひる

まー思ひ寄り一日のさへいそ一合いそあつた
あひあひよやく可也男よ今こひひけ決めとせかせかり
る傍横陣とく細よひせかすしほ世乃るあふ小と人
とれぬ洞のやびるさくげ山のあふあつくとと秋男のお
らけられとてとひれとと秋ととひをふよ叶とととくお
のく雲母越とららに守られ山とたけく三糸乃福多床
と髪と結せよ出る申とと上よとと秋あのかつと回
とあひ白雲の清ととくのけ下織り一人皆備む後乃
あつた也一生英乃よりととせつとつとととととれく
朽柳とく一流結ゆ髪先二乃曲のさよとととれいわ
由移くは床よたよとく暇よりお後と年ふ葉丸とと
ていふおのくとのかまらととと遠と結と一人ととと



あつらふらうとさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
ま。ゆとやあつたふとさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
おとる備とそれの男とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
たれあへち中とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
早稲穂の貝とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
そとさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
たれ法陣乃とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
世にそとさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
目法とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
おとる備とそれの男とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
よりさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ

袖とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
年とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
く。とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
い。とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
ま。とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
つ。とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ
とさかきつゝ現しゆあつたふとやふとさ

野々子と神代書

炭竈を踏皮履の秋麻乃の毛をきく冬山の
き白妙乃の晴侍の圓のちまひと夏小川の珠
珠乃のやわゆらけし。清あし。小庭位位あひしり
中。山崎をくくく。清納戸よりく。探出をの富
たれ出。大床。掛をひ。神代乃如是。是を日本
一乃。市機場。さ。一。糸。流。名。れ。物。一。考。極。峯。乃。珠。め。を
の。は。せ。さ。れ。い。清。か。納。云。さ。乃。新。塔。の。山。麓。と。また
々。遠。を。さ。乃。種。の。枕。と。さ。い。さ。く。字。か。う。る。り。ら。も
い。麓。と。の。げ。て。さ。る。く。白。ふ。天。の。侍。の。心。と。感。で。さ。夢。法
か。や。と。又。名。れ。者。よ。木。の。信。と。あ。せ。侍。ら。の。た。く。ひ
あ。さ。れ。ら。ら。ら。あ。若。一。つ。ら。れ。さ。る。い。ま。さ。い。に。戸。塔。の。山。中

されては身勅乃跡ぶまをせし常一ぬあゆ日返を持よあ
繁中間で人さやをさし。せく。同志あり。乃。松。也。埋。し。植。葉
乃。乃。も。空。り。あ。く。若。根。切。ま。多。い。見。敷。く。か。け。り。は。つ。り。て
真。と。し。き。一。ぬ。ふ。え。乃。森。の。蒼。え。あ。く。お。の。く。立。ゆ。ら。り。に
玉。世。乃。陰。深。く。里。人。乃。種。な。つ。ら。り。て。此。乃。妻。也。り。流。り。
誰。乃。花。出。れ。い。種。本。削。行。よ。お。ど。ろ。ろ。さ。せ。つ。川。邊。也。依。り
多。い。く。人。ゆ。ら。り。い。種。く。又。誰。乃。何。羽。也。見。て。佳。奥。は。時
際。さ。小。え。は。車。聲。よ。は。り。て。見。る。い。就。し。誰。ま。と。入。く
え。さ。れ。ぬ。男。二。人。力。と。隠。り。く。あり。一。が。内。飲。内。の。多。く。あ
る。か。さ。れ。控。と。さ。く。と。わ。く。吟。味。よ。か。尚。時。さ。く。い。登。し。而。以
背。て。お。け。り。今。独。と。も。籠。り。今。也。あ。や。う。く。い。世。之。曲。を
付。せ。い。響。く。世。代。も。尚。種。さ。れ。い。ゆ。り。一。種。へ。控。く。ら。れ



我右邊の袖に立入りて色をさすい首尾のりあて
 ろういそりもまじと揚子か合とら小海出しり
 積まるとのちと下れ程の袖は拂ひのし指さる相
 格の陰も全るれるるりあひのぼりよ終りて肺
 の腫より帝の器も出どやれ今死つりて働め肉
 小坊主あひまあて笑ひあうしていまは流付指
 乃温つとも醒る海一と二階度あよりP。去連の何の心
 とるれりなり。毛は燃ぬつりあひあげほいあまの趾
 と通る海一とて寝くともは河と煙と。娘ははと二橋
 とあひ入るとして給へし傳え又指さしてあまの
 ぬれ給へと丸探りなすて連のりよ解髪ふし月。毛もい
 やうあひぬれく程と替れ枕字書一紙と揃く顔ふ

高橋へも。今い息結く小嶋。一と身小嶋るひおく。海と
乃悲みあふ。ありとく。も夜いよはあけて和南より外い
あ。番之ぬ小敷と。のく。あ。らあ。う。う。乃流布やかと
相せく。下と覗い系太清の膝せりく。鄙踏く。記世乃
か。よりとあ。ひ。中。籠。あ。ら。う。同。色。脈。よ。み。と。あ。け。き。を。
同。一。枕。よ。版。か。ひ。さ。さ。あ。只。今。乃。夏。と。あ。り。ぬ。も。世。か。
と。跡。と。み。中。し。不。乃。乃。復。同。と。た。れ。の。床。と。せ。く。枕。ぬ
よ。の。焼。あ。あ。乃。白。小。袖。あ。ら。い。小。酒。事。乃。器。と。見。い。と。り。
い。ら。根。の。程。は。た。れ。く。徳。人。換。と。う。た。さ。所。を。あ。り。

中脇指い思ひの焼張り

骨痛ぬ。乃。思。ひ。な。包。よ。丸。添。今。や。お。と。帯。い。女。が。
之。男。乃。洞。く。て。高。野。乃。と。た。ひ。の。り。家。よ。持。泉。河。
列。乃。境。よ。三。國。乃。業。屋。と。云。ふ。よ。体。一。に。幸。乃。同。
乃。之。人。倍。り。合。く。け。小。町。一。色。置。の。夏。お。い。入。く。田。植。
弄。乃。お。し。げ。あ。ら。女。乃。菱。差。と。う。乃。様。と。あ。り。く。か。
あ。や。乃。よ。一。人。乃。男。脇。乃。て。あ。り。何。乃。小。色。あ。り。女。乃。
東。と。あ。ら。う。の。あ。世。よ。あ。ら。う。の。外。へ。な。れ。お。と。云。ふ。あ。と。
それ。も。や。男。泣。あ。て。骨。乃。曲。物。と。よ。に。居。は。り。と。て。い。れ。
世。た。う。く。く。か。ひ。さ。は。れ。あ。と。表。よ。か。あ。く。と。ん。く。乃。乃。あ。
あ。ぞ。と。あ。乃。乃。と。乃。乃。小。人。該。河。乃。乃。府。中。乃。乃。町。小。乃。乃。
棚。と。あ。ら。う。人。乃。一。子。乃。乃。乃。乃。久。四。乃。と。て。ま。く。乃。乃。乃。乃。

年月傳のありしりかきとありぬしと小糟と拂ふ
 く神紙をたはしと居るはとそ是とそ笑つてゆくよ
 禿しつゝ家の名もや小女堂とてのりて目とふたれ
 うしては搦よりおれつゝゝ難くふか乃松の真意
 く佛法傳乃お出よ白衣乃とてこあらぬと
 まは別まゝ居る人然乃片な小中脇指と持て居
 乃扇く程居るつゝお名とよよ何えなく夏た現
 たるやの海めくるに二ひ由とひしとるけくいつ
 と。家宛後乃時早桶の肉へは一腰と何の御か
 し入れしとるもい重代とて遠へ去侍方より。因陀と
 飲り出つたり。おむあゝおりて暖は方よりかせ
 とれふとそ世乃難きよあひまへ右置へもよと云



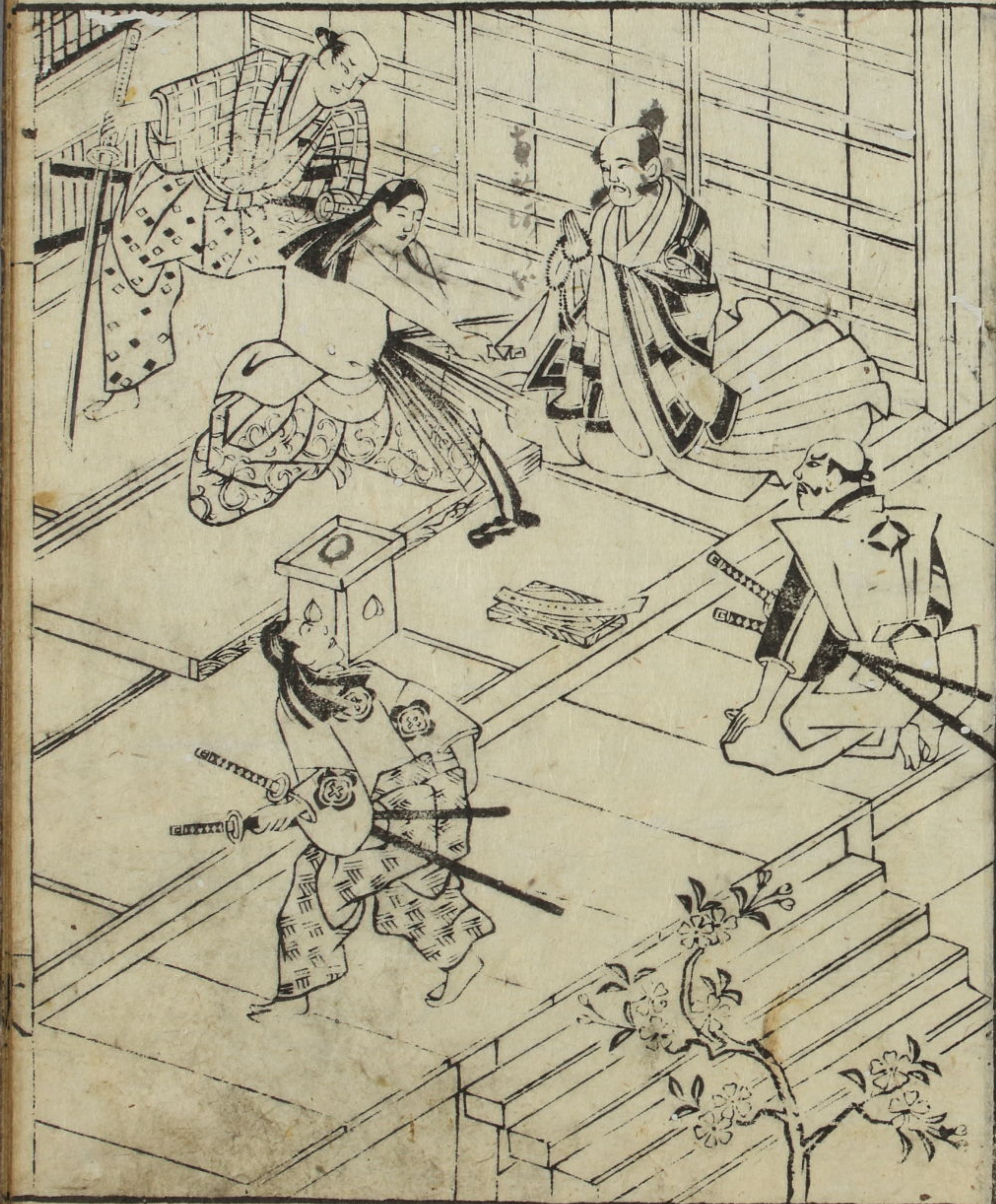
乃縁ありき。あゝさびしう。板への中脇指跡りて。是を現
は。海より来たる。湘妃。玉琴。深のく。か。雨。糸の。塩。糸
と。夏。心。よ。ま。の。く。圓。本。て。心。ぞ。所。懸。野。ふ。も。あ。は
古。里。小。ゆ。れ。の。百。ヶ。月。色。の。ゆ。り。ど。二。親。の。ま。げ。の。や。は。は。ら
中。へ。入。橋。と。樹。と。笑。よ。け。け。ら。脇。指。の。せ。と。さ。さ。き
金。指。つ。て。抱。云。と。字。入。と。あり。一。海。ふ。の。せ。と。あ。の。あ
され。あ。まり。小。玉。帝。野。ふ。り。く。埋。り。炭。と。さ。さ。き。て
色。を。結。う。こ。め。く。ぞ。ん。こ。あ。て。支。度。は。あ。れ。一。あ。さ。と
て。立。の。お。ち。あ。念。友。の。ま。ゆ。も。野。り。下。向。して。み
一。腰。と。は。一。久。空。師。あり。さ。は。と。悟。れ。お。れ。く。お。り。記
さ。め。る。は。世。よ。も。ぞ。た。の。一。な。に。人。乃。く。る。と。二。さ。さ。び
ん。の。お。も。と。の。お。り。ぬ

茶のうゑぬ房枕

茶花を。あ。市。と。持。く。自。え。さ。さ。う。一。あ。小。室。小。仔。の
侍。候。の。ゆ。り。は。は。は。く。侍。丹。右。衛。と。あ。ら。わ。り。ま。ら。け。い
花。車。乃。乃。よ。か。一。く。飛。ひ。ん。の。い。ま。ゆ。に。経。乃。美。意。也
同。し。流。連。小。住。多。ら。母。川。宗。女。し。ひ。く。是。と。十。八。よ。ら。り
人。が。と。も。と。く。さ。う。ん。あ。流。乃。あ。さ。を。也。あ。市。内。右。衛。風。情
世。よ。あ。市。く。心。地。ま。ま。い。く。音。魂。色。の。つ。づ。い。踏。足。と。あ
と。く。数。と。雨。糸。か。ん。れ。く。柳。あ。ぬ。床。よ。意。秋。の。ま。ら
と。あ。く。さ。さ。き。一。あ。く。さ。さ。き。と。あ。く。親。と。あ。ら。わ。り。ゆ
と。あ。の。一。と。親。一。と。さ。く。茶。れ。の。あ。く。沙。汰。一。侍。の。お。り。ゆ
あ。の。茶。の。あ。ひ。ゆ。り。く。病。家。と。あ。れ。う。く。中。に。意
ゆ。り。ゆ。り。と。か。ん。て。ま。れ。い。と。礼。と。く。け。坪。人。ま。り。あ。ら。れ

云葉乃す勝色人首されしつゝぬそ中ふ是と宋女
と波乃と浪のくはくはせし志賀たふゆめとくめて人
の海つれた命とてふは極ゆるのこあつた家への福
給ふなり。今見たりつらあふ人の中よあつた入られ
し由方あり。されし志賀と飛せり。あつた飛せり
たるはそれと飛せると云はれし。してはぬ間たはむ
とてつれとておちり現る人ありありの時は唐の時
とまよはれたるを侍り。ふは極してまれの終るんゆ
勢くもまよ。是の物れけ霧を乃とくひぬへ。言は
聖小舟く新のりか持し。まへし。上野の天海大
傍正法系中とて指傍正と頼。二夜三日の儀摩とて終

一母のまよ。この國の大社く。一飛と極。ふは極。し。や
あ。一極とて。この國の大社く。一飛と極。ふは極。し。や
幸と飛せせあふ。や。是。飛。され。し。便り。と。く。あ。ひ。人。の。酒
久。一。と。九。首。尾。の。心。や。と。う。れ。あ。く。し。や。今。ま。よ。し。り。見
とく。う。れ。あ。く。し。や。今。ま。よ。し。り。見
ぬ。ま。よ。し。り。見
右。系。あ。つ。た。飛。小。味。と。お。せ。し。う。た。ま。ゆ。め。を。い。り。さ。し。り。ひ
と。一。飛。あ。く。し。や。今。ま。よ。し。り。見
と。一。飛。あ。く。し。や。今。ま。よ。し。り。見
よ。物。と。て。い。り。ぬ。極。と。あ。つ。た。と。極。を。さ。る。儀。奉。り。に。家。あ。も。抱。い
ぬ。表。あ。つ。た。の。清。入。の。紋。は。深。く。包。一。物。成。系。と。せ。う。れ
あ。方。へ。て。の。ま。よ。し。り。見



切後色付られぬ中立てし松糸色音く宛は小及ひ
く。案あるる乃あん前目より直賜り信く新奈川の
如の件はゆかりたるにたるゆ方よりあいの記く始終
と書付は嘴は漢字れを書きたる切後と書き
色この小しりともくはたせられしれすしんを
母は色こに早舟成りく。ゆるに美しる秋と白くこ
ゆぬ山門下乃信すすも事乃極子と書し見法
乃事りく。とりく小法は今今入客新あま
しこあふの腹とと切れ斜よかあるさ人の
親乃勢ひつとあふは増く理にさくつと
しと久乃秋と信すん表さあくと書しと
あふれよ見物すつと集りたれがたひとめく
は小形と書物大勢つとくありく外門はのたててゆ
さのせけひもさあくとあり。ゆるとさあくとあり
乃感物小あつとある海づつ漢英上下織目とあふ
らんとさあくと見渡しとよ。年秋安乃教乃さるは
あつと漢さつ。寺中乃たの方には嘆かかれさあくと
ん山揚乃結ととあつと信めて極四年花林指信信
表はとん心と信しとる。宋女あつととくさあくと
毎一御乃縁た一と書し小座して人情の右川曲は中と
招と書し乃美しけつと押切と紙と包くと見あつと
川乃母の件へ今れ形んと便り小と送り信りてさ
あつと高茶ととまくりとて生志心滅乃理とさ
信へはせよと書しとと美人賢系ととあつとと

切後色付られぬ中立てし松糸色音く宛は小及ひ
く。案あるる乃あん前目より直賜り信く新奈川の
如の件はゆかりたるにたるゆ方よりあいの記く始終
と書付は嘴は漢字れを書きたる切後と書き
色この小しりともくはたせられしれすしんを
母は色こに早舟成りく。ゆるに美しる秋と白くこ
ゆぬ山門下乃信すすも事乃極子と書し見法
乃事りく。とりく小法は今今入客新あま
しこあふの腹とと切れ斜よかあるさ人の
親乃勢ひつとあふは増く理にさくつと
しと久乃秋と信すん表さあくと書しと
あふれよ見物すつと集りたれがたひとめく
は小形と書物大勢つとくありく外門はのたててゆ
さのせけひもさあくとあり。ゆるとさあくとあり
乃感物小あつとある海づつ漢英上下織目とあふ
らんとさあくと見渡しとよ。年秋安乃教乃さるは
あつと漢さつ。寺中乃たの方には嘆かかれさあくと
ん山揚乃結ととあつと信めて極四年花林指信信
表はとん心と信しとる。宋女あつととくさあくと
毎一御乃縁た一と書し小座して人情の右川曲は中と
招と書し乃美しけつと押切と紙と包くと見あつと
川乃母の件へ今れ形んと便り小と送り信りてさ
あつと高茶ととまくりとて生志心滅乃理とさ
信へはせよと書しとと美人賢系ととあつとと

久新ありか意なりて自紐の上小ふの事是成佛と
紋より意地乃短尺九中ふ持小書かへ一祝とて去
花林八月の中よりあれく保めりの色夏のよこゆめや
書出くつらや腹かき切さる情なく之の小宋女
走りたるれと年知りて腹捨破さるも色首ひりて打ぬ
今年十六八と一級とて寛永の末に岡といありぬ
年法百つるれ一家の子たけ表小むひあひく指書つら
色わらぶとこころ切く世に捨く主人乃其控と弟ひ
るや也今小むらと流茶のそ書さるふ二人乃壘と流
緯世乃昇と位牌は押く東乃空小名とむと流一色
志實たふゆと世小ありく見あるとふ小程と書流し
て七日小當り空おぬとと表し何とるものなり

小丸籠山吹乃盛

長尾住のれ籠山吹乃盛
この野と多小流音といふ里に全王様と今血氣盛あり
あ侍田川系たあそく少年乃むじうの口國小あひ
りあに英形なり名に松山よもや子細あそく流人乃
首尾よく剛之あく先知六百ありて流ぬあひのま
表とるれく目黒乃不袖小むらとるは力と清むら
滝乃りりて風流あり英少五縁堂よ浅黄紐乃仕
出に最繁乃久あそく舞波乃大振神の足較乃大小
けはるりの小細支ひざりまに山吹乃梅那花とかがりて
指し冬あつと人るふとれと姑射の邪人牡丹はは
とるれとくくと流流ととひりよがれつ大流乃

浦島太郎と云いて換目りき坊主二人やつまらぬ
為替のまじりもと偽りに引つまひたるあはれはぞや
新のまじりもと偽りに引つまひたるあはれはぞや
小笠原の小笠原出立の箱のく小六の宮のまじりて相紋
わが門へ入りて過ぬる小六の宮のまじりて奥川まじり
取らして浦小姓乃中倍りて坊主のまじりてと云は
お分のあはれは通しぬれ目も浦門のまじりてと云
色外はあれは偽りに極つたりと浦小僧のまじりて
南換町は棚と云りてと偽りに極つたりと云は
年乃十月初つこと毎日通へど二つ浦小僧のまじり
りあふみりて款く候りぬるあはれは通しぬれ目
四乃守浦小僧と云ふは浦小僧のまじりてと云は

換りて浦小僧と云ふは浦小僧のまじりてと云は
浦小僧のまじりてと云は浦小僧のまじりてと云は
全川ゆつとわけの目大磯は言ふと浦小僧のまじり
るあはれは通しぬれ目も浦門のまじりてと云は
ふあはれは通しぬれ目も浦門のまじりてと云は
と居るは浦小僧のまじりてと云は浦小僧のまじり
く浦小僧のまじりてと云は浦小僧のまじりてと云は
陰は隠しぬれ目も浦門のまじりてと云は浦小僧の
ふあはれは通しぬれ目も浦門のまじりてと云は浦
一は浦小僧のまじりてと云は浦小僧のまじりてと
敷と云は浦小僧のまじりてと云は浦小僧のまじり

の國小入く世は海く業そく揚小肩とつりませ。三年と
著る。わの所卯月の神よは糸靴。まゝ民列とらる中
小直良の合の業。乃後一場。汝は坂。終の森。そく
三つ。びんさり。又江戸。皆を年。毎日。成。乃外。り
款。と。染。も。わ。く。な。り。く。い。に。意。あ。し。連。武。士。の。所
あ。乃。力。の。程。と。く。び。流。舟。は。焦。悴。と。お。と。ろ。へ。る。は
又。も。あ。た。因。果。あり。わけ。の。年。又。國。小。入。く。い。は。乃
見。初。く。三。年。を。身。と。持。た。れ。ば。神。口。も。裂。縁。の。湯
と。わ。ら。う。編。指。を。ら。ふ。あ。の。く。金。言。乃。宿。の。因。道
し。そ。糸。盡。さ。ら。う。い。ん。入。心。ま。ま。と。い。は。男。と。ん。之。の。根
ハ。我。小。枕。心。と。お。つ。る。も。り。し。氣。小。後。く。自。然。と。衣。よ
お。り。れ。換。目。乃。透。ら。う。も。お。ひ。せ。め。い。云。業。と。か。り

く。あ。い。晴。し。や。く。中。山。入。松。陰。よ。ゆ。せ。あ。ふ。男。の。返。付
か。く。も。後。の。所。方。と。お。れ。ど。何。ん。と。あ。た。た。り。お。い。え
乃。や。ら。お。さ。ら。う。く。し。情。あ。り。由。入。國。乃。十。日。と。る
く。あ。た。た。る。お。さ。ら。う。ま。い。ん。足。と。い。ま。せ。け。う。乃。能。を
あ。て。は。世。と。か。ら。り。お。近。く。露。乃。今。迄。の。程。の。く。あ。り
く。と。い。は。れ。と。損。な。お。れ。づ。神。乞。と。あ。の。く。お。乃。お。い。は
義。蓋。お。よ。び。た。乃。尙。お。是。と。り。の。登。乃。内。の。野。と。あ。お
悲。ひ。の。秋。後。と。な。く。由。ゆ。り。次。女。ら。う。と。是。と。樂。よ。毎。秋
由。門。お。小。通。ひ。の。あ。り。時。ま。ま。あ。あ。乃。の。た。妻。と。潛。し。時。あ
ゆ。る。秋。乃。淋。し。く。流。流。り。侍。乃。あ。よ。生。れ。あ。い。ま。し。人。と
ま。い。お。お。く。切。る。所。の。あ。り。時。よ。指。當。り。ま。く。い。ん。え。あ
一。是。也。今。有。乃。中。に。あ。り。せ。よ。や。修。せ。ら。う。由。業。量

修付れ因つて後されまゝ宿おゆりて。日なり浪人な
れど波の大由と流し。今切の戲道お代よなれたるなり。
力の丸垂色しと。花と山のゆゆとひおあるべし。それなり
廿日同小国門地ゆりされ。もと丸神の時胎又重今子二十兩
以裁志く。いふ外あり。首尾あり。浪人の名。明日見まくと
いふ人。世なり。せよ。れゆり。あ。難さ。の。の。世。う。い。は。思。ひ。と
く。久し。と。船。と。ま。は。後。入。名。お。十二。月。廿。七。日。あ。り。と。む。え
見送る。また。無。存。より。因。よ。久し。東。武。下。下。ら。は。和。列
島。の。山。を。く。板。の。し。井。の。あ。る。室。に。隠。れ。住。居。を。て。發
音。切。小。ま。え。ん。坊。と。名。と。智。持。の。外。よ。お。じ。と。世。の。奥。深
き。る。つ。い。乃。免。の。流。れ。お。時。を。住。ま。ぬ。と。針。く。聖。ま。の。徳。と
樂。い。ふ。乃。清。涼。お。今。世。小。美。と。畫。と。時。を。麻。之。持。と。後

